

文京トリビアのたまご ～解答～（文化・芸術編）

No	正解	解説
1	B) 東京大学	明治38年1月4日、5日に渡って「国民新聞」から「かるた会变遷」と題して掲載された記事によると、競技かるたの黎明期にあたる明治25、6年頃東京で、本郷の帝国大学(現在の東京大学)の学生によって設立された緑倶楽部と弥生倶楽部が初めての競技かるたのかるた会であると書かれていることから、文京区は「競技かるた」の発祥の地とされています。
2	C) 湯島天満宮	湯島天満宮では、毎年、競技かるたの大会として、1月頃に全国小学生選手権大会、8月頃に全国中学生選手権大会が開催されており、小・中学生のチャンピオンが決まります。
3	C) 菅原道真	この歌は文京区にある湯島天満宮に祀られる学問の神様・菅原道真(菅家とも呼ばれています)によって詠まれました。A天智天皇は「秋の田の刈庵の庵の苦をあらみ わが衣手は露に濡れつつ」の作者、B在原業平は「ちはやぶる 神代も聞かず 龍田川 からくれなゐに 水くるとは」の作者です。
4	A) 黒岩涙香	それまで場所により様々だった競技かるたのルールは、1904年(明治37年)にジャーナリストの黒岩涙香によって統一され、競技かるたとして確立されました。1954年に結成され競技かるた大会の開催や段位認定を行っている(一社)全日本かるた協会は、文京区大塚にあります。
5	C) 金色夜叉	尾崎紅葉「金色夜叉」の冒頭に「…三十人に余ぬる若き男女は二分に輪作りて、今を盛と歌留多遊を為るなりけり。…」という明治のかるた会の模様が書かれています。
6	A) 文京スポーツセンター	文京スポーツセンターは、毎年、最上位クラスであるA級の新春全国大会の会場となっています。かるた記念大塚会館では、名人戦・クイーン戦に向け、東日本の代表を決める戦いや、その東西の代表者による名人位・クイーン位挑戦者決定戦等の重要な大会が行われています。
7	C) 謡(うたい)宝生	ユネスコ無形文化遺産でもある能楽は、室町時代初期の「大和猿楽四座」と言われる観世流、宝生流、金春流、金剛流に、江戸時代初期に確立した喜多流を加え、現代では「能楽五流派」と言われています。その中で宝生流は、重厚な芸風かつ謡(うたい)宝生とも呼ばれる細やかで優美な節回しが特徴となっています。
8	B) 徳川綱吉	綱吉は自ら能を舞い、ある年は1年に71番の能と150番以上の舞囃子を行ったといわれており、また、側近や諸大名にも能を舞うことを強制したといわれています。綱吉はとりわけ宝生流を好みました。
9	B) 加賀宝生	宝生流は、江戸時代に、五代将軍徳川綱吉が好んだこともあり、加賀藩においても、五代藩主前田綱紀によって宝生流が取り入れられ、北陸の地に根づいていきました。令和元年に区と友好交流都市協定を結んだ金沢市は、現代でも宝生流が大変盛んな地域であり、その地域の宝生流は加賀宝生とも称されています。
10	C) 松平頼壽	水戸徳川家の分家で旧高松藩の松平頼壽(よりなが)は、貴族院議長・旧本郷区の教育会長等をつとめ、明治維新で衰退した能楽を支援し、本郷1丁目の土地を宝生会(宝生流の組織)に譲りました。能楽堂は昭和3(1928)年に完成しましたが、第二次大戦で焼失しました。現在の能楽堂は、昭和54(1979)年に完成しました。徳川宗家を継いだ徳川家達(いえさと)や安田財閥の創設者である安田善次郎も、能楽堂建設時より宝生会役員を務め、宝生流能楽を支援した方です。

No	正解	解説
11	A) 夏目漱石	夏目漱石は、明治40年から下掛宝生流の家元・宝生新に謡の指導を受けるようになりました。あまり上達しなかったようですが、朝日新聞のエッセイ「永日小品」などに自身の謡について面白おかしく描かれています。 なお、森鷗外は兄弟で歌舞伎を好みました。泉鏡花は明治期に宝生流の能楽師として活躍した伯父と従弟がおり、能がテーマの小説「歌行燈」などがあります。
12	C) 地下1階回廊	文化事業係では若手芸術家への支援の一環として、創作活動の発表の場と併せ、来庁者が身近に芸術と触れ合う機会の提供の一助となるよう「アートウォールシビック」事業を実施しています。月ごとに絵画や書道などの作品を展示していますので、ぜひご覧ください。
13	B) 陶芸展	秋の文化祭は戦後間もなくから毎年行われている歴史ある区の文化事業で、今年度で「華道展・茶会」と「絵画展」が第71回、「書道展」が第38回目を迎えます。今年度も10/2(金)～11/1(日)に秋の文化祭を開催します。 ※今年度はコロナウイルス感染症の影響により、茶会は茶室の展示のみに変更しています。
14	A) 36施設	文京区内の博物館・美術館・庭園の36施設を結ぶ文京ミュージアムネットワーク。年1回区役所の1階ギャラリーにて、各館を紹介するミュージズフェスタを開催しています。また各施設を紹介したミュージズマップを年1回発行しています。ぜひ訪れてみてください。
15	B) 13本	文京区では、平成19年から毎年「三曲のつどい」を開催しております。和の音色で癒されてみてはいかがでしょうか？
16	B) 吟剣詩舞大会	文京区の主催事業として、「民謡大会」「民踊のつどい」「吟剣詩舞道大会」「合唱のつどい」「三曲のつどい」「謡曲大会」「日本舞踊のつどい」の7つを開催しており、区民の方に日頃の練習の成果を披露していただいています。無料でご覧になれますので、ぜひお越しください。
17	A) 肥後細川庭園	まるキャンマーケットの一環として(公社)宝生会にご協力いただき、肥後細川庭園にて薪能を開催しました。薪能とは、屋外に臨時的な能舞台を設置して上演する能楽です。
18	C) 樋口邦子(一葉の妹)	幸田露伴は、一葉亡きあとも一葉全集の刊行に尽力するなど樋口家との付き合いが続いており、関東大震災で墨田区の自宅に住めなくなった露伴は、一葉の妹の邦子に文京区の住まいを紹介されたといわれています。
19	A) 徳田秋声	徳田秋声は 何度か上京していましたが、明治39(1906)年に本郷森川町に転居してから亡くなるまで 約 40 年を同地で過ごしました。秋声は明治 4(1871)年生まれで、来年、生誕 150 年を迎えます。現存する徳田家は 都の史跡 に指定されています。
20	B) 千駄木	長谷川町子は千駄木3丁目の団子坂の家を倉庫として使用していました。その後、易に凝っていた講師の5代目宝井馬琴が自身の方位が良いということで、長谷川町子に頼み込み、譲ってもらいました。長谷川町子は今年生誕100年を迎えました。

No	正解	解説
21	C) 喜之床(本郷2丁目)	漂泊の歌人と呼ばれる石川啄木は、生涯で3回の上京をし、その大部分を現在の文京区内で過ごしました。3回目の上京で啄木は、金田一京助を頼って赤心館(せきしんかん)に住み、その後蓋平館(がいへいかん)、喜之床(きのとこ)と区内で転居をし、喜之床に居住しているときに歌集「一握の砂」を発表しました。その後、久堅町(現在の小石川5丁目)に移りそこでその生涯を閉じました。現在啄木終焉の地には、歌碑及び顕彰室が設置されています。
22	A) さくらまつり	石川啄木の終焉の地を含む地域のお祭りである文京さくらまつりでは、平成31年2月に区と盛岡市が友好都市提携を結んだことを記念して、盛岡さんさ踊り団体に出演してもらうようになりました。太鼓と踊りの迫力あるパレードは一見の価値があります。
23	A) 雁	森鷗外は明治25年から亡くなる大正11年まで、文京区千駄木にあった観潮楼(かんちょうろう)にて執筆活動を行いました。この観潮楼の跡地が、現在、森鷗外記念館となっています。「三四郎」は夏目漱石、「十三夜」は樋口一葉の作品です。
24	B) 猫の家	夏目漱石は、イギリスから帰国後の明治36年から3年間この家に住んでおり、代表作の「吾輩は猫である」の舞台となったとされています。現在は区指定史跡となっており、家屋は愛知県にある明治村に移築され、公開されています。
25	C) めさまし草	めさまし草は、森鷗外主宰の文芸雑誌で、その中の鷗外・斎藤緑雨・幸田露伴による匿名座談形式の合評である「三人冗語」において、一葉の作品は高く評価され、その名が知られるようになりました。なお、2022年は樋口一葉が生誕150年、森鷗外が生誕160年・没後100年を迎えます。
26	A) 横山大観	第二次世界大戦が勃発した翌年の昭和15年、横山大観の母校である湯島小学校は創立70周年を迎え、大観は小学校の同窓会の依頼を受けて作品「富士」を揮毫し、寄贈しました。「富士」は長い間校長室に飾られていましたが、作品保存の観点から現在はレプリカが飾られています。また、美人画で有名な竹久夢二は現在の本郷5丁目、詩人・彫刻家である高村光太郎は現在の千駄木5丁目に居住していたことがあり、皆区に縁のある芸術家です。
27	C) ノヴェンバー・ステップス	武満徹は文京区出身の作曲家です。伝統的な邦楽器や雅楽の楽器とオーケストラとを組み合わせた作品を多数作曲しました。この曲はニューヨークフィル125周年記念委嘱作品であり、小澤征爾の指揮で行われた初演は大成を収め、「世界のタケミツ」として後世に名を残すことになりました。
28	C) 8時だヨ！全員集合	文京公会堂は、完成当時、座席数は都内で4番目の規模であり、1959年に第1回レコード大賞授賞式が行われた他、ザ・ドリフターズ出演の「8時だヨ！全員集合」の収録も行われていました。
29	A) 陶器二三雄	設計者の陶器二三雄は、当館の設計により、2014年第55回BCS賞、2015年日本芸術院賞、日本建築学会作品選奨を受賞しています。
30	B) 佐藤武夫	庁舎建築を多く手掛けた佐藤武夫。当時の庁舎は、モダニズムの流れをくむ、時計塔が印象的な建物でした。

*石川啄木の「啄」の字は、キバ付きが正しい表記ですが環境依存文字のためこの表記としています。